

**兵庫県洲本市における「子ども第三の居場所」
みらいえ**

2024 年度事業報告書



特定非営利活動法人

兵庫 SPO 支援センター

令和6年度 子ども第三の居場所 事業報告書

令和7年4月15日

特定非営利活動法人兵庫SPO支援センター

1. 事業計画

(1) 目的

生き抜く力を育む「子ども第三の居場所」を運営する。行政、NPO、市民、企業の方々と協力し、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティをつくりことで、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指す。

(2) 目標

- ・2025年3月31日までに一日平均利用児童数を20名にする。
- ・ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供
- ・子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に月1回を目標に実施する。

(3) 事業内容

子どもたちが安心して過ごせる環境で生き抜く力を育むことを目的として、以下の事業を実施する。

1. 兵庫県洲本市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

- (1) 期間：2024年4月1日～2025年3月31日（週4日、平日14時から19時、土曜10時から14時まで開所）
- (2) 場所：兵庫県洲本市
- (3) 対象：20名（家庭や自身に課題を抱えた小学低学年中心）
- (4) 内容：子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。

2. 事業実績

- (1) 期間：2024年4月1日～2025年3月31日（週3～4日、平日14時から19時、土曜日はイベントを中心に随時開所）
- (2) 場所：兵庫県洲本市
- (3) 対象：10名（登録児童数）イベント時は地域の子どもを含め18名～50名（子どものみの数字）
- (4) 内容：「洲本子ども第三の居場所みらいえ」の活動を通じて、日常的には安心・安全な居場所を提供し、イベントやセミナーを通じて、児童の自己肯定感やコミュニケーション能力を向上させた。加えて保護者向けセミナー等も開催し、共に考え共に「みらいえ」を創っていくメッセージを発信した。

3. 各種取り組みについて

- (1) 通常開所
- (2) ライフスキル学習
- (3) 地域イベント「みらいえフェスティバル」（夏まつり・秋まつり）開催


- (4) アーティストとのワークショップ「アーティスト×みらいっ子」(体験と出会い)
- (5) 保護者向けセミナー「シンポジウム」と「懇談セミナー」
- (6) ハロウィン本町商店街
- (7) まちなか公園プロジェクト



(1) 通常開所

1. 取り組み

- ① 開所日時：毎週火・水・木曜日 14時～19時（食事なしの場合は18時まで）
土曜日はイベント時に随時開所
- ② 場所：当施設（洲本市本町7丁目2-25）
- ③ 通所人数：10名 平均 3名（2025年3月末時点）

活動内容

内容	場所	活動内容
学習	主屋2階 学習スペース	<p>学習タイム 10分×学年 それぞれの課題学習 児童の希望と状況に合わせて 5つのコースを選択して、実施</p> 
遊び・体験 活動・読書 タイム	主屋1階及び 図書室	<p>自由で積極的な活動から、好きなものを見つけて、それを追求していく (トランプ・シルバニアファミリー・工作など)</p> 
夕食	主屋1階	<p>夕食提供（希望者） サポート：県立洲本高校生（月1回程度）</p> 

お誕生日会	主屋1階	その月の子どものお誕生日会 準備・実施：県立洲本高校生	
クリスマス会	主屋1階	クリスマスに合わせて実施 準備・実施：県立洲本高校生	

(2) ライフスキル学習

実施日：2024年9月18日（水）、9月25日（水）、11月6日（水）

2025年1月22日（水）、3月12日（水）

場 所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」

参加者：当施設スタッフ及びボランティア教員

実践は当施設通所児童

内 容：

回	カテゴリー	主な内容
1	みつける	課題分析と明確化
2	つながる	居場所の目標を設定 ライフスキルの理解と教材紹介
3	やってみる	『ライフスキルで育てる ひとりで生きる力！みんなで生きる力！』を実践してみる
4	使ってみる	『ライフスキルで育てる ひとりで生きる力！みんなで生きる力！』を使ってみる&自立のステップ
5	ふりかえる	実践の課題分析と改善策の検討



(目的) 地域住民との交流・子どもたちのコミュニケーション能力向上

内容：オープニング演奏（LIBERREAL）

（各種コーナー）楽描きコーナー・占いコーナー・五色百人一首コーナー
箸置きストラップづくり・子育て相談コーナー・夏休み宿題お助けコーナー
スーパーボールすくい・輪投げ・的当てコーナー・子どもマルシェ
クロージング：みんなで歌おう



スーパーボールすくい



子どもマルシェ

みんなで歌おう～心をひとつに～

2. 秋まつり

開催日時：2024年11月23日（土・祝）10時～15時30分

場所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」及び駐車場及び商店街

入場者：約100名

内容：オープニング演奏（蒼開中学校高校ジャズバンド部）

（各種コーナー）バルーンアート・スーパーボールすくい・緑のじゅうたんコーナー

美文字レッスン・クリスマス飾りづくりコーナー・子どもマルシェ

子育て相談コーナー

クロージング：「心のうた」声楽・安永郁子氏



オープニング演奏

スーパーボールすくい

美文字レッスン



クロージング「心のうた」 声楽・安永郁子氏

クリスマス飾りづくり

(4) アーティストとのワークショップ「アーティスト×みらいっ子」

(目的) アーティストと共に作品づくりを行い、自分の好きと出会い、可能性を伸ばす。

1. ワークショップ 手作り教室「身近な素材×紙でアクセサリーを作ろう！」

開催日時：2024 年 7 月 11 日 (木) 17 時～18 時

アーティスト：moi.toi.宇城基さん (アクセサリー作家)

場 所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」ギャラリー

参加者：4 名

内容：身近にある物を材料に、はさみを使ってアクセサリーにします。



2. 陶芸ワークショップ「世界にひとつだけのうつわを陶芸の講師と一緒につくってみませんか」

開催日時：2024 年 12 月 4 日 (水) 16 時 30 分～17 時 30 分

アーティスト：福留春菜 氏 (陶芸家)

場 所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」ギャラリー

参加者：7 名

内容：土の状態からかたちにして、焼き上げます。



3. 増田薫さんの似顔絵教室

開催日時：2025 年 2 月 1 日（水）13 時 30 分～15 時

アーティスト：増田薫 氏（画家）

場 所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」主屋 2 階 学習スペース

参加者：9 名

内容：似顔絵を描くポイントやちょっと可愛らしくキャラクターチックに描けるコツを教わりました。



(5) 保護者向けセミナー（シンポジウム・懇談セミナー）

（目的）不登校や発達特性を持つ子どもを抱える保護者及び支援者に対して、共感と希望のメッセージを送ると共に、課題解決に向けた具体的な取り組みのヒントを提示する。

1. シンポジウム「発達特性がある子どもとの学び合い・育ち合い」

開催日時：2024 年 11 月 9 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分

講 師：医療福祉の現場から松下徹 氏

学校の現場から津田泰至 氏

当事者でADHD専門サポーターから宮下瞳 氏

場 所：洲本商工会議所 2 階多目的ホール

参加者：10 名

内容：子どものちょっとした行動や言動から、不安を覚える保護者を対象に、子どもの特性を理解し、どのように対応したらよいかを伝えました。



2. 不登校を考える～中谷恭子先生を囲んで～「子どもの自立支援 つながりを育てるために」

開催日時：2025 年 2 月 11 日（火・祝）13 時 30 分～15 時 30 分

講 師：中谷恭子 氏

兵庫県精神保健福祉センター

場 所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」主屋 2 階

参加者：10 名

内容：不登校等で悩む保護者向けに懇談的に話をして、そこで出た具体的なアドバイスを参加者で共有しました。



(6) ハロウィン本町商店街

（目的）洲本子ども第三の居場所「みらいえ」は商店街の一角にあります。ハロウィンイベントを通して、商店街を回り子どもたちを知ってもらおうと共に、地域で子どもを支える環境を醸成します。

開催日時：2024年10月30日（水）16時30分～17時30分

場所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」及本町商店街

参加者：18名（地域の子どもを含む）

内容：仮装の衣装を「みらいえ」で作製し、当日は事前に協力を申し出ている商店を回って、お菓子をいただきました。



(7) まちなか公園プロジェクト

（目的）母子公園を明石工業高等専門学校生と「みらいえ」の子どもたちと一緒に創っていく体験を通して、共同作業の手法と、まちの課題を解決するという目的を待つことで、自己肯定感を高め、考える力を育みます。

開催日時：2024年12月～2025年3月

「母と子のみらいえ公園」オープンイベント 2025年3月22日（土）

場所：洲本子ども第三の居場所「みらいえ」前の駐車場1台分を公園にした。

参加者：「みらいえ」の子ども9名+明石高専生5名

内容：国立明石工業高等専門学校生が「みらいえ」の子どもたちに寄り添うかたちで、企画から進め、最終「みらいえ」の子どもたちが描いた絵のパネルを貼って完成させた。



4. 事業総括

(1) 背景

社会で「孤立」と「格差」が進んでいる。

行政や企業、既存の機関だけでは、新たなニーズに対応できず、「孤立」が進んでいる。

「助けて」と言えない空気のなかで、なによりも「つながり」の希薄が解決を難しくしている。

(2) 経緯

「地域で地域を支えるしくみをつくる」として、2017年に法人を立ち上げ、2020年に「地域で孤立する子どもを見守り支える」として、「蔵の子ども図書館」を開設、昨年より日本財団の「子ども第三の居場所」事業に取り組むことになった。

同事業を受託できたことで、具体的なかたちで「孤立」を解決していくアプローチとプロセスを描くことができています。

(3) 事業の成果

昨年の2月に洲本子ども第三の居場所「みらいえ」の事業がスタートし、「この場所があって助かった」という不登校児童の家族の声や、「みらいえに行くようになって、明るくなった」との学校側からの声をいただけるようになった。

この1年、子どもたちは多様な取り組みやイベントを通じて、地域に関わり、人と関わり、自己肯定感、コミュニケーション能力、考える力を育むことができたと考えています。

また、行政や地域の各機関との連携は、代表が洲本市の事業に専念できる体制となったことから、連携を深めていくことができたと考える。

(4) 課題

通所児童数が10名と伸び悩んでいる。「この施設の取り組みや良さが伝わっていない」「存在自体が知られていない」など、「伝わっていない」現状がある。

また、寄付のしくみづくり、自主事業の確立なども急務と考えるが、そのノウハウを持ち、動けるのは代表のみとなっており、時間の確保が難しい側面があった。

2024年度は、これまで担っていた西脇市の事業等の整理もあり、事務量が多かった面もある。会計業務も外注とする体制をとったが、効果的なやりとりの確立には時間がかかり、2025年度は改善できると考えている。

